

報国寺の紹介

報国寺、正式名称功臣山報国寺は、禅宗の臨済宗の寺です。開山は 1334 年で、足利家の忠誠な家来である上杉重兼（1375 年没）によって、足利家時（1284 年没）の魂に祈りを捧げるために開基されました。開山したのは、中国で禅を学んだ日本の僧である天岸慧広（1273-1335）です。

1923 年の関東大震災によって、報国寺の建造物のほとんどが破壊され、その後徐々に再建されました。今日、報国寺は竹林があることで最も有名です。竹林には約 2,000 本の孟宗竹が生えており、灯籠や茶室があります。本堂の裏に位置するこの静かな竹林は、慧広が晩年ほとんどの時間を過ごして坐禅を行ったり詩を読んだり書いたりした場所に作られたと言われています。

報国寺の入り口にある静かな苔庭には像が点在しており、写真愛好家に人気のスポットとなっています。寺の境内全体に、それぞれの季節に花が咲く植物が植えられているので、1 年中鮮やかな自然の美しさを確実に楽しめます。春には、桜、ツツジ、そしてアヤメが咲きます。秋には銀杏の葉が鮮やかな黄色になり、冬にはサザンカや梅の花を楽しめます。

報国寺は、かつて強大な権力を誇った足利家の氏寺の 1 つです。家時の孫である足利尊氏（1305-1358）は、1338 年に将軍になりました。足利幕府は 1573 年まで日本を治めました。本堂の裏から庭を見守るように、3 つのやぐらがあります。やぐらとは、墓地として人の手によって掘られた洞窟で、家時を含めて足利家の重要人物がここに埋葬されていると考えられています。

本堂には、報国寺の本尊である 50 センチメートルの高さの釈迦如来像が安置されています。本堂の隣にある 2 階建ての迦葉堂には、応接間と坐禅用の部屋があります。迦葉堂の坐禅室の中には、1347 年に彫られた慧広の木像が安置されています。